

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第117回 「思春期の不安定さにどう向き合うか」

こころの相談員 前田 里美

思春期は小学校高学年頃から高校生ぐらいまで続き、その様子や時期も個人差が大きいです。体は大人へと変化し、精神面でも自立しようとしませんが、体と違って勝手に大人にはなれず、悩みながら自分を確立していく過程が必要となります。

親の側とすれば、小さな頃から手を掛けてきたこともあり「まだ子どもだから守ってあげなくては」と、子どもが自分自身で対処していけるように一歩引いて見守るということがなかなか難しいものです。また、親自身の反抗期の記憶しか参考になるものは持ち合わせていないので、対応がわからず迷ってしまうのも当然でしょう。

反抗にもいろいろあり、言葉での反論・力での反抗・無視など、誰しも対応に困ってしまいます。しかし、その反抗の裏側には様々な思いが隠されています。「自分は何者なのか」「親から独立したい」「今まで（子ども）のままで甘えていたい」「認められたい」「周りと自分を比べる」など、その思いに自分では気づいていないかもしれないが、どうしたらいいかわからずもがいているのです。子どもの衝動を無理に抑えつける事はできないかもしれないし、それは逆効果になることもあるでしょう。

そんな子どもには、詮索せずに多少の事は大目に見て、その代わり日常の何気ない声掛けを忘れない事です。頭ごなしに叱ってしまったり、反抗的な態度にこちらがカッとなり言い争いになってしまったら、一旦クールダウン。お互いが落ち着いている状態で話をしましょう。

子どもが自分自身を獲得する為には、一人の人間として尊重し、一緒に考え自分で決めさせることが重要です。習い事・部活・進路・就職・結婚など、この先いくつものターニングポイントが待っています。それを実行していくのは子ども自身なら、決断するのも子ども自身でなくてはいけません。自分で決断すれば責任も感じ、結果も受け入れられるはずですが、親の期待はあって当然ですが、その期待で子どもを抑圧しないようにしたいものです。

※前田相談員は、朝日小学校・中学校で相談活動を行っています。

7月活動報告

プチボラ事業 7月29日(水) 特別支援児おでかけ事業 南知多ビーチランド・えびせんの里

今年も天気に恵まれ暑い中、イルカショーを見たり、おもちゃで遊んだりとたくさんの思い出ができました！



今年、プチボラとして大学生のお姉さんが参加して、一緒に楽しくいっぱい遊んでいただきました。ありがとうございました！